

第7回国際反芻獣繁殖学会での研究発表

小 野 守

連合獣医学研究科獣医学専攻臨床獣医学講座（博士課程2年）

1. 目 的

第7回国際反芻獣繁殖学会に参加して、研究成果についてポスター発表を行い、世界各国の反芻獣のスペシャリストたちに向けて本学からの情報を発信する。また、世界各国の研究者たちとの情報交換および交流を深める。

2. 期 間

平成18年8月11日～平成18年8月18日

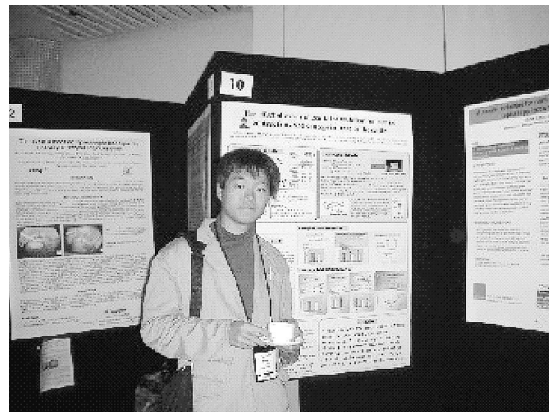


写真1. ポスター発表の様子

3. 場 所

ニュージーランド・ウェリントン

4. 内 容

第7回国際反芻獣繁殖学会（8月11日～8月18日，7th international Ruminant Reproduction Symposium）

第7回国際反芻獣繁殖学会は、ニュージーランドの首都ウェリントンに位置するテ・パパ国立博物館において開催された。国際反芻獣繁殖学会は、反芻獣の繁殖における世界でも屈指の学会であり、今回は49題の招待講演と126題の一般発表が行われた。

招待講演は、生殖器に関する基礎研究に始まり、神経内分泌、配偶子、そして近年脚光を浴びている分野である胚に関する諸研究など多岐に渡った。特にバッファローやラクダ、ヤクといった、反芻獣の中では日本にあまりなじみのない種に関する講演も行われ、それらの動物種の特性には非常に興味を覚えた。日本では反芻獣というとウシ、ヒツジ、ヤギ、そして野生動物であるシカなどが馴染みであるが、他国の反芻獣について学ぶことで今までとは違った切り口で研究を考えることが出来ると思われた。また、国内の学会と比較すると、質問の内容も高いレベルで洗練されたものが多く、講演の内容と合わせて非常に強い刺激を受けた。

私は“The effect of external genital stimulation on uterine contractions and conception rate in cattle.”

という演題でポスター発表を行った。この研究は、牛の人工授精時の陰核刺激が受胎率を向上させるとの報告をもとに、その再現実験とメカニズムの解明を目的に行った。その結果、ウシに対する外陰部刺激が子宮収縮を誘起することが示された。会場では興味を持って頂いた研究者の方からの質問や議論を通して非常に有益な情報を得ることができた。外陰部刺激が受胎率を向上させることは昔から知られていたことであったが、この方法を取り入れている獣医師・人工授精師はまれである。獣医師・人工授精師のコンセンサスを得るためには生理学的な根拠を示すことが必須条件であるので、今回の研究発表がその一助となればと期待している。

多くの国際学会でそうであるように、学会の休憩時間では落ち着いた雰囲気の中で各国の研究者達が情報交換を行った。招待講演や一般演題の発表から学び、情報交換を通して各国の研究者達との交流を深めることが出来ることはこの上のない喜びであった。この経験を今後に生かせるよう今後とも努力していく所存である。



写真 2. 学会会場の様子



写真 3. 学会抄録

5. 謝 辞

今学会に参加するにあたり、ご援助を賜りました財団法人帯広畜産大学後援会に厚く御礼申し上げます。

キーワード：ウシ，外陰部刺激，人工授精